社会情報デザイン学部 社会情報デザイン学科

教育研究上の目的

社会情報デザイン学科は、これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する知識を有するとともに、自らの興味・関心に基づき課題を発見し、その課題解決に向けて多様な他者の価値観を理解、尊重しながら協働し、柔軟な発想力、企画力をもって、プロジェクトを完遂することができる人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

社会情報デザイン学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する知識を有し、よりよい社会を目指すうえで必要となる思考力と自己研鑽していく態度を持っている。
2. 多様な他者の価値観を理解、尊重しながら、対話を通じて他者に働きかけ、協働することができる。
3. 自らの興味・関心に基づき課題を発見し、情報を活用しながら柔軟な発想でアイデアを創造、提案し、他者と協働しながらプロジェクトを完遂することができる。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（社会学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1. これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する基礎知識、専門知識を有している。
2. 立場の異なる他者を尊重しながら対話する力を有している。
3. 課題の発見・解決のプロセスのために必要となる情報を正しく収集・活用できる力を有している。

②思考力・判断力・表現力

1. これからの社会の構想とその実現に向けた課題解決のために必要となる論理的・創造的思考と判断力を有している。
2. 多様な他者の価値観を理解することのできる態度を有している。
3. 社会が必要としているモノやサービスについて、柔軟な発想で考え、新しいアイデアを提案する力を有している。

③主体性・多様性・協働性

1. これからの社会で何が必要であるかを見定め、生涯にわたり自己研鑽していく態度を有している。
2. 課題解決に向けたプロジェクトを企画するうえで必要となる積極性や働きかける力を有している。
3. 他者と協働しながらプロジェクトを完遂する力を有している。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

社会情報デザイン学科では、ディプロマ・ポリシーに定める資質・能力を育成するために必要な授業科目を精選し、系統のかつ体系的な教育課程を編成している。そのために、社会情報デザイン学科では、「基礎ユニット」「専門ユニット」「演習・卒業研究」の3つの領域区分を設け授業科目を配置している。

基礎ユニットでは、これからの社会において必要となる基礎的な知識や力を養うとともに、生涯にわたって自己実現を成し遂げるうえで必要となる基本的な姿勢を育むことを目的とする。

この目的を果たすために、以下の3つのユニットを設定する。

- ・「現代社会理解」では、これからの社会において必要となる社会やビジネスに関する基本的な知識やスキルを広く養うことを目的とし、「現代社会の基礎理解」「ビジネス入門」「現代社会論」「社会学概論」を必修科目とする。
- ・「思考・表現」では、グループワークなどを通じて、他者と協働し、チームで新しい価値を生み出すためのスキルや姿勢を育むことを目的とし、「発想法入門」「課題探究ワークショップⅠ」を必修科目とする。
- ・「情報活用」では、コンピューターを用いた演習などを通じて、これからの社会において必要となる情報の収集・活用に関する基本的な知識やスキルを養うことを目的とし、「社会情報リテラシー」「調査・統計リテラシー」を必修科目とする。

専門ユニットでは、自らの興味関心に基づいてより高度な専門知識を身につけるとともに、それをさまざまな場面で活用することで、社会課題の発見・解決を志向する力を養うことを目的とする。

この目的を果たすために、以下の5つのユニットを設定する。

- ・「経営・マーケティング」では、ビジネスの現場で生ずるさまざまな問題を解決するために必要となるマネジメントやマーケティング能力を養うことを目的とする。
- ・「社会デザイン」では、社会課題を発見しその解決の道筋をつけるためのより高度な知識と調査スキル、そして実践力を養うことを目的とする。
- ・「データサイエンス」では、さまざまなデータを収集・分析・活用する方法を習得することを目的とする。
- ・「情報システム」では、より高度なプログラムを作成するための知識とスキルを養うことを目的とする。
- ・「メディアデザイン」では、色彩や音響、映像などのデザインの技法を習得することを目的とする。

演習・卒業研究では、習得してきた知識・スキルを統合し活用する能力を養い、主体的に課題探究に取り組み、その成果を発表する力を養うことを目的とする。

この目的を果たすため、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「卒業研究」を必修科目とする。

教育の実施には、それぞれの科目の内容に合った授業形態（講義、演習、実習）を用いる。他者と協働する力を育成し、主体的な学びの姿勢を高めるために、教員と学生間の双方向型授業、グループディスカッション、グループワーク等のアクティブ・ラーニングの手法を取り入れたPBL（課題解決型授業）を導入する。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

基礎ユニット

1. これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する基礎知識を身につけさせる。
2. 立場の異なる他者を尊重しながら対話する力を育成する。
3. 情報を正しく収集・活用できる力を身につけさせる。
4. 身近な生活における課題発見・解決のために必要となる論理的・創造的思考と判断力を身につけさせる。
5. 多様な他者の価値観が存在することを認められる態度を育成する。
6. 身近な生活における課題に対して柔軟な発想で考え、新しいアイデアを提案する力を身につけさせる。
7. 社会に対して広く興味・関心を持たせ、自ら継続的に学ぶ姿勢を育成する。
8. 課題解決に向けたプロジェクトを企画するうえで必要となる積極性を育成する。
9. 他者と協働しながらプロジェクトを完遂する力を身につけさせる。

専門ユニット

1. これからの社会において必要となる社会・情報・ビジネスに関する専門知識を身につけさせる。
2. 立場の異なる他者を尊重しながら対話し、合意にたどりつく力を身につけさせる。
3. 課題の発見・解決のプロセスのために必要となる情報を正しく収集・活用できる力を身につけさせる。
4. これからの社会の構想とその実現に向けた課題解決のために論理的・創造的思考と判断力を身につけさせる。
5. 多様な他者の価値観を理解することのできる態度を育成する。

6. 社会が必要としているモノやサービスについて、柔軟な発想で考え、新しいアイデアを提案する力を身につけさせる。
7. これからの社会で何が必要であるかを自ら見定め、生涯にわたり自己研鑽していく態度を育成する。
8. 課題解決に向けたプロジェクトを企画するうえで必要となる他者への働きかける力を育成する。
9. 他者と協働しながらそれぞれの専門性を駆使してプロジェクトを完遂する力を身につけさせる。

演習・卒業研究

1. 卒業研究を行ううえで必要となる専門知識を身につけさせる。
2. 立場の異なる他者との対話から新しい知見を引き出すことができる力を育成する。
3. 研究を進めていくために必要となる情報を正しく収集・活用できる力を身につけさせる。
4. 卒業研究を行ううえで必要となる論理的・創造的思考を身につけさせる。
5. 多様な他者の価値観を理解したうえで、自らの主張を論理的に相手に伝える力を身につけさせる。
6. 個々の研究成果を客観的に表現する力を身につけさせる。
7. 卒業研究から得られた成果をこれからの社会に還元しようとする姿勢を育成する。
8. 個々の研究を進めていくために、他者と協力し合える力を育成する。
9. 個々の研究テーマに対して主体的に取り組む姿勢を育む。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

社会情報デザイン学科では、本学科に入学してくる学生が、学科の人材育成目的の達成に向けて開設される科目群を履修することによって、卒業時までには自身の将来の展望を見出し、それに必要な汎用的スキルと専門知識を獲得し、そしてその後の絶えざる自己研鑽の姿勢を形成できるようになるために、以下の資質・能力を有する人を求める。

1. 多様化・複雑化する社会の出来事に対して興味がある。
2. 他者と互いを尊重し認め合いながら協働しようとする意欲がある。
3. 課題の発見・解決の基礎となる論理的思考力を備えている。

また、入学後の学修の基盤として、次の知識や能力が求められる。

①知識・技能

1. 入学後の修学に必要な基礎学力（特に、英語・国語・数学）を有している。
2. 自身の考えを適切に表現し、他者に伝えることができる能力を有している。
3. 社会の出来事に関する情報を正しく収集・活用できる力を有している。

②思考力・判断力・表現力

1. 多様化・複雑化する社会の出来事を理解するために必要となる論理的思考力を有している。
2. 自分とは異なった他者の価値観を認め、寄り添うことができる。
3. 日々の生活の中で疑問をもつ力を有している。

③主体性・多様性・協働性

1. 入学後の修学に対して積極的に取り組み、自己研鑽しようとする意欲がある。
2. 他者と協働する意欲をもち、またその基礎的能力を有している。
3. 課題に対して主体的に取り組むことができる。